ONKYO®

デジタルシアターシステム

# UXW-3.1

# 取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

## はじめに



## 接続と使用準備をする



## 演奏する



## その他

# 主な特長

■ ドルビー*プロロジックII、ドルビーデジタル、DTS**、AACデコーダー内蔵
■ 独自のハイクォリティ設計、OMF※1ダイヤフラム採用J'DRIVE※2方式サブウーファー（※特許出願中）
■ デコーダー、アンプ、サブウーファーが一体化。コンパクトで簡単接続、リモコン付属で簡単操作
■ オンキヨー製CD/MDチューナーアンプFR-155AX/N3Xとの組み合わせで5.1チャンネル再生可能、電源連動など便利なシステム動作。
■ 4チャンネルアンプ内蔵
■ デジタル入力端子として光2系統を装備
■ 見やすい表示部
■ オンキヨー独自の5つのリスニングモード
■ サンプリング周波数96kHz入力に対応

※1 **独自開発OMFダイヤフラム採用のスピーカーユニット**
スピーカーユニットにはすべてOMF（Onkyo Micro Fiber）ダイヤフラムを採用。独自の素材と成形方法によって、振動板に要求される条件（①軽量②高剛性③適度な内部ロス）を最適にバランスさせ、雑音の低減、トランジェント（過渡特性）を向上させています。また、サブウーファー部、サテライトスピーカーは、音質の良い木製キャビネットを採用しています。

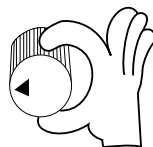
※2 **コンパクトながら自然で迫力ある重低音、J'DRIVE方式 （特許出願中）**
サブウーファー部はスピーカーユニット前面の容積を限界まで小さくした特殊な構造を採用し、高い圧力で圧縮膨張した空気を開口部から一気に放出する、いわばジェットエンジンのような空気の流れによって、自然で迫力ある重低音を再現しています。



• AACパテントマーキング

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Pat. 5,848,391 | 5,291,557 | 5,451,954 | 5 400 433 | 5,222,189 |
| 5,357,594 | 5 752 225 | 5,394,473 | 5,583,962 | 5,274,740 |
| 5,633,981 | 5 297 236 | 4,914,701 | 5,235,671 | 07/640,550 |
| 5,579,430 | 08/678,666 | 98/03037 | 97/02875 | 97/02874 |
| 98/03036 | 5,227,788 | 5,285,498 | 5,481,614 | 5,592,584 |
| 5,781,888 | 08/039,478 | 08/211,547 | 5,703,999 | 08/557,046 |
| 08/894,844 | 5,299,238 | 5,299,239 | 5,299,240 | 5,197,087 |
| 5,490,170 | 5,264,846 | 5,268,685 | 5,375,189 | 5,581,654 |
| 5,548,574 | 5,717,821 | | | |

## ♪ 音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

# オーディオ機器の正しい使いかた

## オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください

### 絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。

その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

### 絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

# ⚠警告

## ■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

## ■ 絶対に裏ぶた、カバーは外さない、改造しない

分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対に外さないでください。
  内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

## ■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

## ■ 放熱を妨げない

- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や後部などに通風孔があけてあります。
  次の点に気を付けてご使用ください。

  - 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
  - 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
  - テーブルクロスをかけたり、布団の上に置いて使用しないでください。
  - 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。

## ■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

## ⚠警告

### ■ 水の入った容器を置かない

● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

### ■ 中に物を入れない

● 本機の通風孔に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

### ■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

### ■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものを載せたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物を載せてしまうことがあります。

● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

### ■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源コードをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

### ■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

### ■ 乾電池を充電しない

● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより火災・けがの原因となります。

# ⚠注意

## ■ 設置上の注意

- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上にものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- 移動させる場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やけがの原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、スピーカーコードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、接続コードやスピーカーコードを外してから行ってください。落下や転倒など、思わぬ事故の原因となります。
- 壁はその材質、また桟などの位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ますので、取り付けに際しては、十分ご注意ください。（専門業者にご相談ください。）

## ■ スピーカーコードは安全な場所へ

- スピーカーコードの配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。スピーカースタンドを利用した場合や高い所に置いた場合、壁に掛けた場合など、特にご注意ください。

## ■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

## ■ 使用上の注意

- 電源を入れたときは、音量に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
- 長時間音がひずんだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- 音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。
  磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

## ⚠注意

### ■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビ等の機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

### ■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードやスピーカーコードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

### ■電池について

- 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

### ■スピーカーコードについて

- スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

# ⚠注意

## ■点検・工事について

電源プラグをコンセント
から抜いてください

● お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

● 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

● 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

● シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

### お手入れについて

キャビネットは、時々シリコンクロスまたは、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものなどでふきますと傷がついたり、文字が消えたり、変色したりすることがありますから、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
サランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るか、ブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

### カラーテレビやパソコンとの近接使用について

一般にカラーテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので、普通のスピーカーシステムを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。本機は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）（旧（社）日本電子機械工業会（EIAJ））の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能となっています。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分〜30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残るような場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものが置かれていますと、本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

### 取り扱い上のご注意

本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

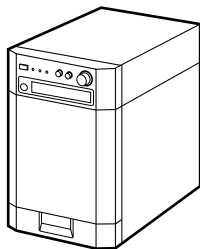
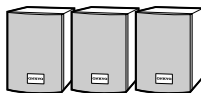
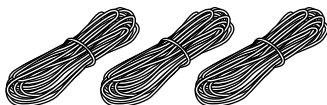
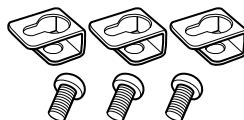
① FMチューナーが同調していないときのノイズ
② テープレコーダーを早送りしたときの音
③ 発信器や電子楽器等の高い周波数成分の音
④ アンプが発振しているとき
⑤ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
⑥ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音（抜き差し時は必ずアンプの電源を切ってから行ってください。）
⑦ マイク使用時のハウリング

# 箱を開けたら、まず

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品名の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

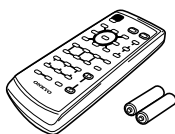
## 付属品を確認する

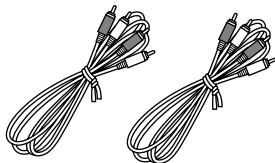
ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。（ ）内の数字は数量を表しています。

- 本体（UXW-3.1 PAW）（1）

- カラースピーカーコード
  （センター/サラウンド用） 8m（3）

- リモコン（RC-495S）（1）
- 乾電池（単3形）（2）

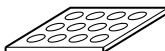
- オーディオ用ピンコード 3m（2）

- サテライトスピーカー（UXW-3.1 ST）（3）

- 壁掛け金具セット（3組）

- オーディオ用光デジタルケーブル（1）

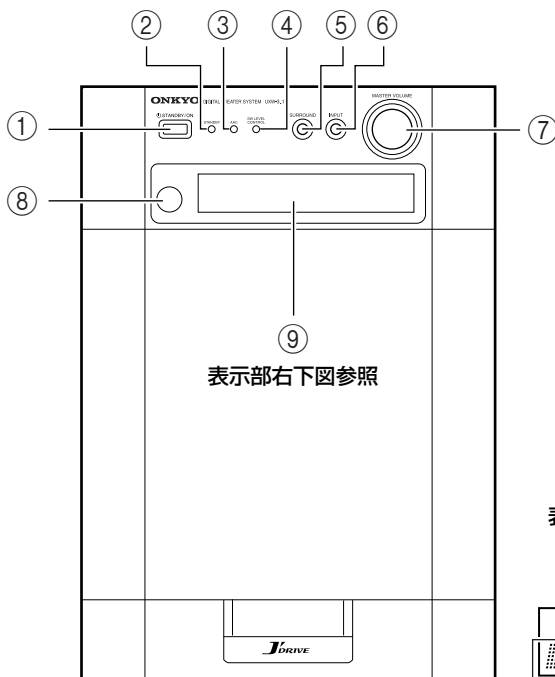
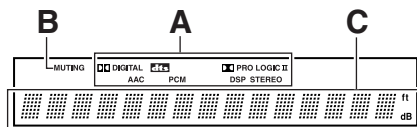
- RIケーブル 3m（1）

- サテライトスピーカー用コルクスペーサー
  （一組〈12個〉）

- 取扱説明書（本書1）
- 保証書（1）

ご注意

本機は、本体および同梱のサテライトスピーカーとの組み合わせで最良の状態になるように設計されております。本体と他のスピーカーとの組み合わせや、他のアンプとサテライトスピーカーとの組み合わせでご使用になった場合の故障については、保証できない場合がありますのでご了承ください。

# 各部の名称と働き

［ ］内の数字は、参照ページを示しています。

## 前面パネル

① **STANDBY/ON（スタンバイ/電源オン）ボタン［21］**

後面パネルの主電源スイッチがONのとき、電源オンとスタンバイ状態（スタンバイインジケーターが点灯）を切り換えます。

② **STANDBY（スタンバイ）インジケーター［21］**

スタンバイ状態のときに赤く点灯します。

③ **AACインジケーター**

入力信号がAACのときに点灯します。

④ **SW LEVEL CONTROL（サブウーファーレベルコントロール）インジケーター**

リモコンのSW LEVEL CONTROLボタンでサブウーファーのレベルを切り換えたときに点灯します。

⑤ **SURROUND（サラウンド）ボタン［30、31］**

サラウンドモードを選びます。

⑥ **INPUT（インプット）ボタン［24］**

入力ソースを選びます。

⑦ **MASTER VOLUME（音量）調整つまみ［24］**

音量を調整します。

⑧ **リモコン受光部［12］**

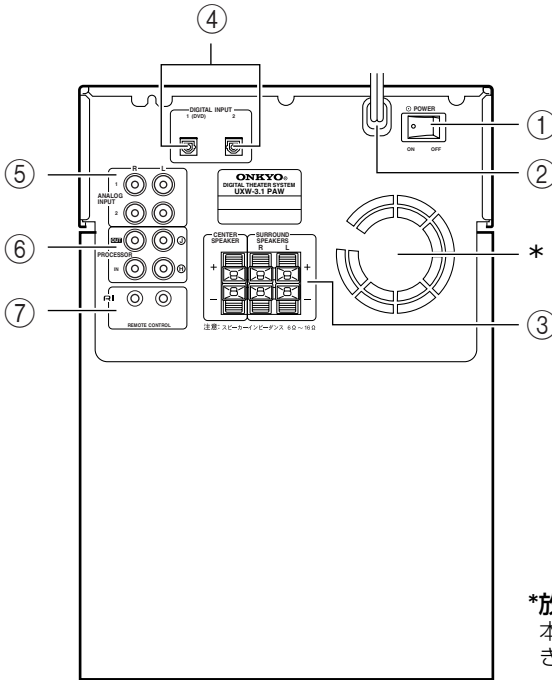
⑨ **表示部**

A サラウンドモード、デジタル入力フォーマットインジケーター

B ミューティングインジケーター

C 多目的表示部

［ ］内の数字は、参照ページを示しています。

## 後面パネル

***放熱用ファン**
本機内部の温度が上昇したときに、ファンが回ります。

① **POWER（主電源）スイッチ［21］**
主電源のON/OFFを切り換えます。

② **電源コード［21］**

③ **CENTER SPEAKER（センタースピーカー）端子、SURROUND SPEAKERS（サラウンドスピーカー）端子［20］**
センタースピーカー、サラウンドスピーカー（左/右）を接続します。

④ **DIGITAL INPUT 1(DVD)、2（光デジタル入力1 (DVD)、2）端子［16～18］**
DVDプレーヤー、CDプレーヤーなどの光デジタル出力端子と接続します。

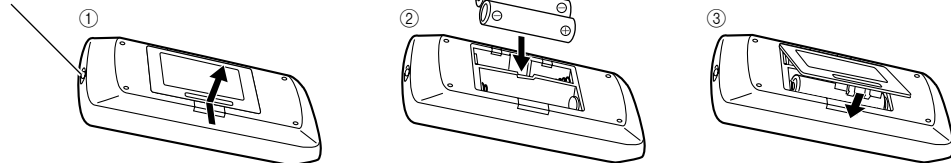
⑤ **ANALOG INPUT1、2（アナログ入力1、2）端子［16～18］**
オーディオ用ピンコードで、ビデオデッキなどのライン出力端子（アナログ）と接続します。

⑥ **PROCESSOR IN/OUT（プロセッサー入出力）端子［16～18］**
付属のオーディオ用ピンコードでお手持ちのアンプのプロセッサー入出力端子と接続します。

⑦ **RI端子［17］**
RI端子をもつオンキヨー製品と接続します。

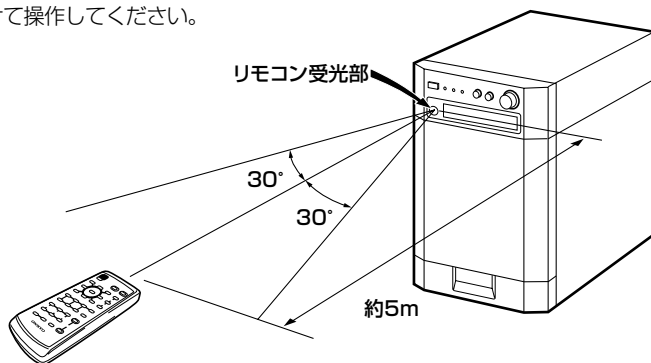
# リモコン

## リモコンを準備する

### 乾電池の入れ方と交換の仕方

ご注意

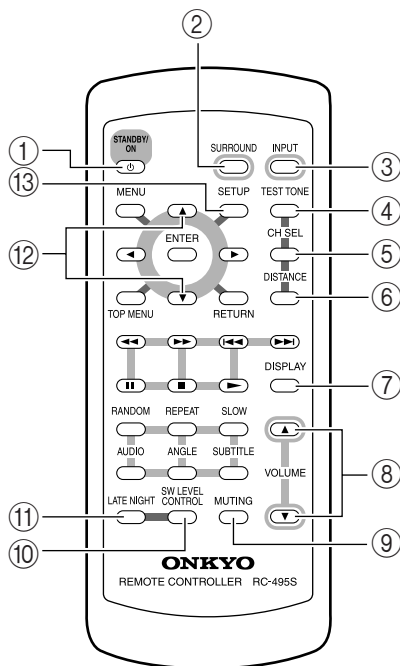
- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 使用頻度にもよりますが、付属の電池の寿命は約6ヶ月です。電池の交換時には、単3型をご使用ください。

### リモコンの使い方

本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

［　］内の数字は、参照ページを示しています。

## リモコンRC-495S

### UXW-3.1操作ボタン

① STANDBY/ON（スタンバイ/電源オン）ボタン［21］

後面パネルの主電源スイッチがONのとき、電源オンとスタンバイ状態（スタンバイインジケーターが点灯）を切り換えます。

② SURROUND（サラウンド）ボタン［30、31］

サラウンドモードを選びます。

③ INPUT（入力切り換え）ボタン［24］

押すたびに、入力ソースが切り換わります。

④ TEST TONE（テストトーン出力）ボタン［23］

各スピーカーから、テストトーンが出力されます。スピーカーのレベルを合わせるときに使用します。

⑤ CH SEL（チャンネル切り換え）ボタン［22、23、25］

距離またはレベルを設定するスピーカーを選びます。

⑥ DISTANCE（距離設定）ボタン［22］

スピーカーとの距離を設定するときに押します。

⑦ DISPLAY（ディスプレイ）ボタン［32］

入力信号のフォーマットを表示するときに押します。

⑧ VOLUME（音量調整）▲/▼ボタン［24］

▲を押すと音量が上がり、▼を押すと下がります。

⑨ MUTING（ミューティング）ボタン［25］

音量を一時的に下げます。

⑩ SW LEVEL CONTROL（サブウーファーレベルコントロール）ボタン［26］

サブウーファーレベルを切り換えます。

⑪ LATE NIGHT（レイトナイト）ボタン［31］

ドルビーデジタル録音されたソフトを演奏するとき、ダイナミックレンジ（音量の大小幅）を小さくします。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するとき、小さな音も聞こえやすくなります。

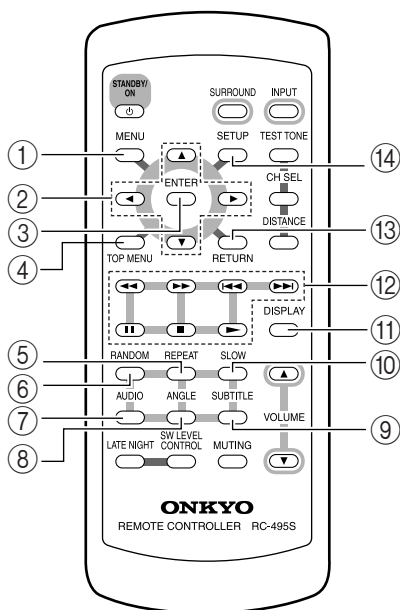
⑫ LEVEL/DISTANCE（レベル/距離調整）▲/▼ボタン［22、23、25］

各スピーカーのレベルや距離を設定するとき、数値を上げ下げします。

⑬ SETUP（セットアップ）ボタン［27］

電源連動機能のオンとオフを切り換えるときに押します。

# リモコン

本機とオンキヨー製DVDプレーヤーはRI接続しておいてください。また、必ずオーディオ用ピンコードでの接続もしてください。（☞17ページ）

## オンキヨー製DVDプレーヤー操作ボタン

① MENU（メニュー）ボタン
メニュー画面を表示します。

② ▲/▼/◀/▶（カーソル）ボタン
設定項目を選択するときにカーソルを移動します。

③ ENTER（エンター）ボタン
設定項目を確定します。

④ TOP MENU（トップメニュー）ボタン
トップメニュー画面を表示します。

⑤ REPEAT(リピート）ボタン
タイトルやチャプターを繰り返し再生します。

⑥ RANDOM（ランダム）ボタン
タイトルやチャプターをランダムに再生します。

⑦ AUDIO（オーディオ）ボタン
言語や音声を切り換えます。

⑧ ANGLE（アングル）ボタン
アングルを切り換えます。

⑨ SUBTITLE（サブタイトル）ボタン
字幕言語を切り換えます。

⑩ SLOW（スロー）ボタン
スロー再生します。

⑪ DISPLAY（ディスプレイ）ボタン
ディスクの情報を表示します。

⑫ DVDプレーヤー操作ボタン
▶：再生します
■：停止します
❚❚：一時停止します
◀◀/▶▶：早戻し/早送りします
|◀◀/▶▶|：チャプターやトラック、曲の頭出しをします

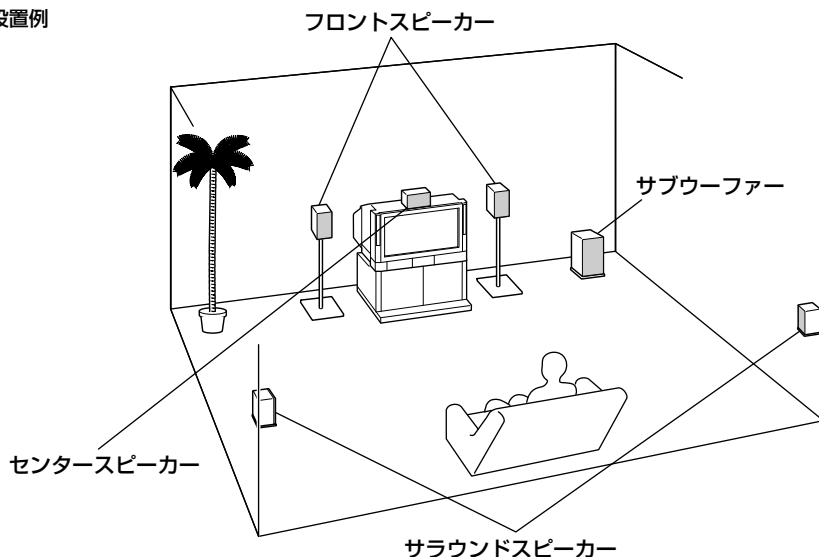
⑬ RETURN(リターン）ボタン
メニュー画面操作時、押すとひとつ前の画面に戻ります。

⑭ SETUP(セットアップ）ボタン
初期設定画面を表示します。

# スピーカーを設置する

本機はフロント以外の4チャンネルのアンプを内蔵しており、本体内蔵のサブウーファーと3つのサテライトスピーカーを適切に配置することにより、最適なサラウンド再生を楽しむことができます。
付属のサテライトスピーカーはすべて同じ性能です。3つを左右サラウンドスピーカーとセンタースピーカーとして使用します。
フロントスピーカーは、お手持ちのアンプとスピーカーをご使用ください。

## 基本的な設置例と各スピーカーの役割

スピーカーの設置は、実際には部屋の大きさや壁の材質などによっても違ってきますが、ここでは各スピーカーの基本的な配置例と各スピーカーの役割を紹介します。

- **左右フロントスピーカーとセンタースピーカー**
  視聴者の前方に配置します。
  — 3つのスピーカーがなるべく同じ高さになるように設置してください。
  — 音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。
  フロントスピーカーは、総合的に音声を出力します。5.1チャンネルで柱となり、音場をしっかり整える役割を果たします。
  センタースピーカーは、左右フロントスピーカーの音源効果や、音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。
- **左右サラウンドスピーカー**
  視聴者の横または後ろに配置します。
  音の立体的な動きを表現し、背景をイメージした環境音、また場面を盛り上げる効果音を作りだして臨場感を高めます。
- **サブウーファー(本体)**
  部屋のどの場所に設置してもかまいませんが、一般的に部屋の隅に近いほど効果が出やすくなります。再生される低音の質や量はサブウーファーの置き場所や、部屋の形状、聞く位置によって大きく変わりますので、部屋の色々な位置に置いてみることをおすすめします。
  迫力のある重低音効果を最大限に発揮します。

**ご注意**

サブウーファー(本体)は、リモコンで操作できる位置に配置してください。

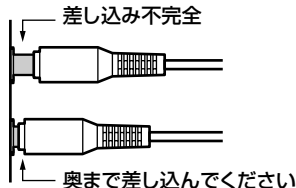
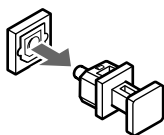
# オーディオ機器を接続する

本機にはデジタル音声入力端子とアナログ入力端子があり、最大で4種類の音声機器を接続することができます。

- ドルビーデジタル、DTSソフト、AACソースなどのデジタル信号を再生するためには、デジタル音声入力端子への接続が必要です。

**すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。**

**ご注意**

- DIGITAL INPUT 1（DVD）、2端子には、保護用キャップが取り付けられています。接続時は、このキャップを取り外してください。使用しない場合、キャップは必ずもとどおりに取り付けておいてください。
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全だと、雑音や動作不良の原因になります。

- 音声用ピンコードは、次のように接続してください。

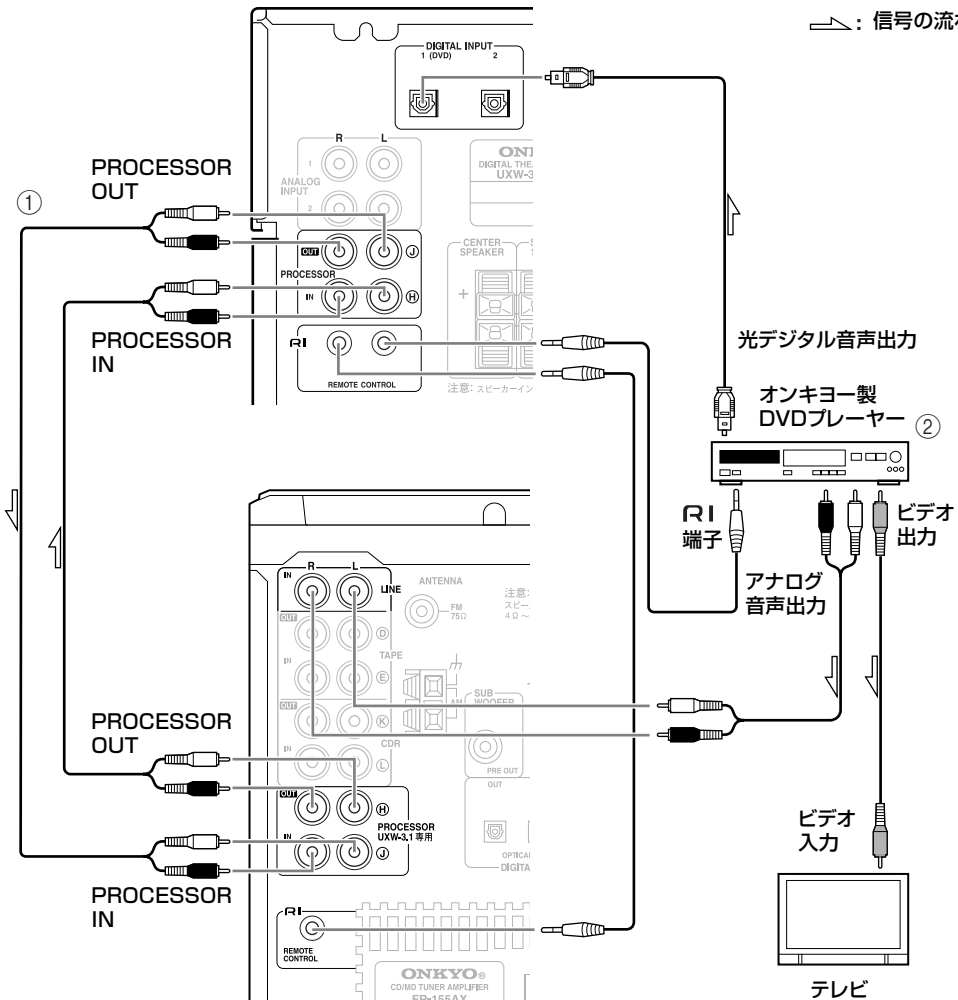
- 音声用ピンコードはスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質が悪くなることがあります。

## オンキヨー製MD/CDチューナーアンプFR-155AXまたはFR-N3Xとの接続例

### ① 本機とFR-155AXまたはFR-N3Xとの接続

- 付属のオーディオ用ピンコードを使って、本機のPROCESSOR OUT端子ⓙとFR-155AX/N3XのPROCESSOR IN端子ⓙ、本機のPROCESSOR IN端子ⓗとFR-155AX/N3XのPROCESSOR OUT端子ⓗを接続してください。
- 付属のRIケーブルを使って、RI端子どうしを接続してください。システム機能を使うために必ず接続してください。
- 2つのRI端子のはたらきは同じです。どちらにでもつなげます。

### ② 本機とオンキヨー製DVDプレーヤーとの接続

- 付属のオーディオ用光デジタルケーブルを使って、本機のDIGITAL INPUT 1（DVD）端子と、DVDプレーヤーのデジタル出力端子を接続してください。
- DVDプレーヤーに付属のRIケーブルを使って、RI端子どうしを接続してください。
- システム機能を使うためには、DVDプレーヤーとFR-155AX/N3Xをオーディオ用ピンコードで接続することが必要です。DVDプレーヤーのANALOG OUT L/R端子とFR-155AX/N3XのLINE IN L/R端子を接続しておいてください。
  また、FR-155AX/N3Xの入力表示名のLINEをDVDに変更しておいてください。（変更のしかたは、FR-155AX/N3Xの取扱説明書をご覧ください。）

ご注意

- オンキヨー製のDVDプレーヤーまたはＣＤプレーヤーは、本機のDIGITAL INPUT 1 (DVD) 端子に接続してください。
- オンキヨー製のMDレコーダーまたはＣＤレコーダーは、本機のDIGITAL INPUT 2端子に接続してください。

## ■ システム機能について

本機とFR-155AX/N3Xを組み合わせてご使用になると、システム機能を使うことができます。詳しくは27ページをご覧ください。

## オーディオ機器の接続例

：信号の流れ

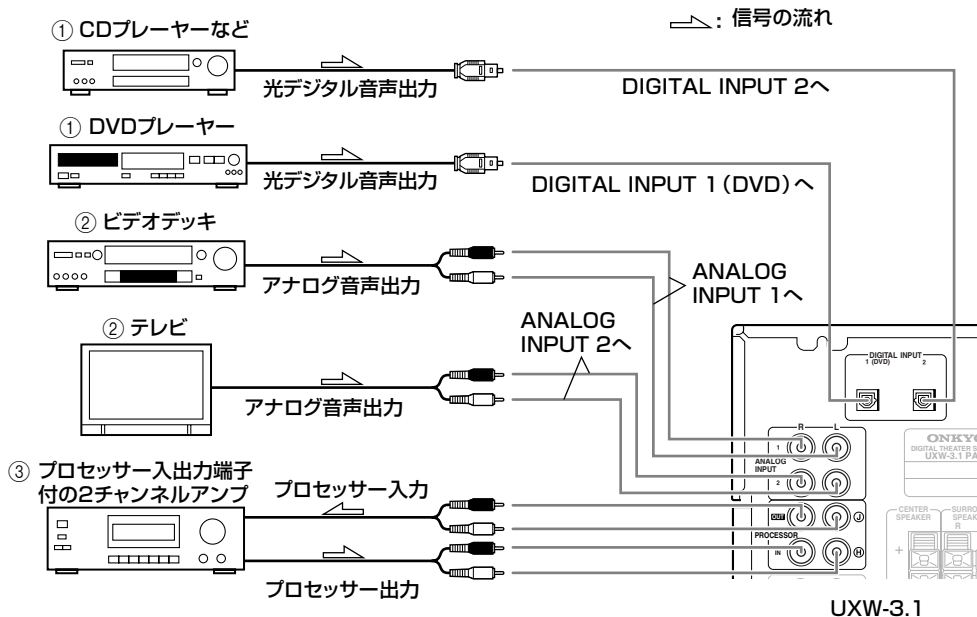
① CDプレーヤーなど
光デジタル音声出力
DIGITAL INPUT 2へ

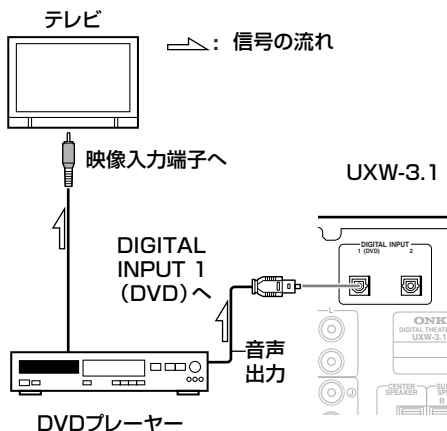
① DVDプレーヤー
光デジタル音声出力
DIGITAL INPUT 1（DVD）へ

② ビデオデッキ
アナログ音声出力
ANALOG INPUT 1へ

② テレビ
アナログ音声出力
ANALOG INPUT 2へ

③ プロセッサー入出力端子付の2チャンネルアンプ
プロセッサー入力
プロセッサー出力

DIGITAL INPUT 1 (DVD) 2
ANALOG INPUT 1 2
PROCESSOR OUT IN
ONKYO DIGITAL THEATER S UXW-3.1 PA
CENTER SPEAKER
UXW-3.1

① DIGITAL INPUT 1（DVD）、2端子には、DVDプレーヤーやCDプレーヤーなどの光デジタル音声出力を接続します。
② ANALOG INPUT 1、2端子には、ビデオデッキやテレビなどの音声出力を接続します。
③ PROCESSOR IN/OUT端子には、プロセッサー入出力端子付き2チャンネルアンプのプロセッサー入出力を接続します。

## テレビを含む接続例

本機に接続できるのは、音声信号のみです。映像信号は、それぞれの機器から直接テレビに接続する必要があります。

### DVDプレーヤーのみを接続する場合

DVDプレーヤーの映像出力をテレビの映像入力に接続し、音声出力を本機に接続します。

この接続では、DVDプレーヤーでソフトを再生し、本機のINPUTボタンで接続した機器の音声入力信号を選びます。

# スピーカーを接続する

**接続の前に**
付属のスピーカーコードの準備をします。

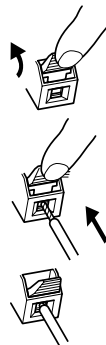
❶ スピーカーコードのビニールカバーの先を外します。

❷ しん線をよじります。

**スピーカー端子への接続方法**

❶ レバーを押します。

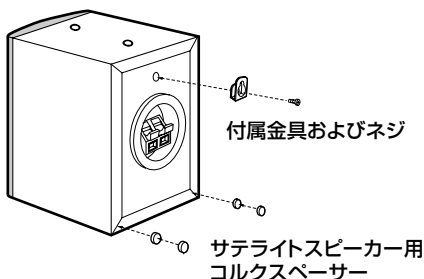
❷ しん線を穴の中に入れます。

❸ レバーをはなします。

## サテライトスピーカーの設置について

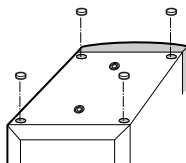
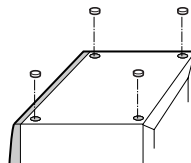
■ **サテライトスピーカー用壁掛け金具の使い方**
付属の壁掛け金具をキャビネットに付け、壁のネジに引っ掛けることによって、壁掛けスピーカーとして使うことができます。（スピーカーの上下を逆にして使用します。）

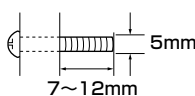
**金具の取り付け方**
付属のネジを使ってキャビネット背面に金具を付けます。また、付属のサテライトスピーカー用コルクスペーサーを図の位置に2枚重ねて貼り付けることにより、安定して設置できます。

**サテライトスピーカー底面**

**ご注意**

壁掛けスピーカーとしてご使用になる場合は、壁の強度に十分注意してください。壁はその材質、また桟（さん）などの位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ますので、取り付けに際しては十分注意してください。
ネジは、頭の直径が10mm 以下、ネジ部の直径が4mm 以下で、できるだけ太く、長いものをご使用ください。
（業者の方にご相談いただくのが安心です。）

■ **サテライトスピーカー用コルクスペーサーについて**
よりよい音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。また、コルクスペーサーを使用することにより、すべりにくくなり、安定した設置をすることができます。

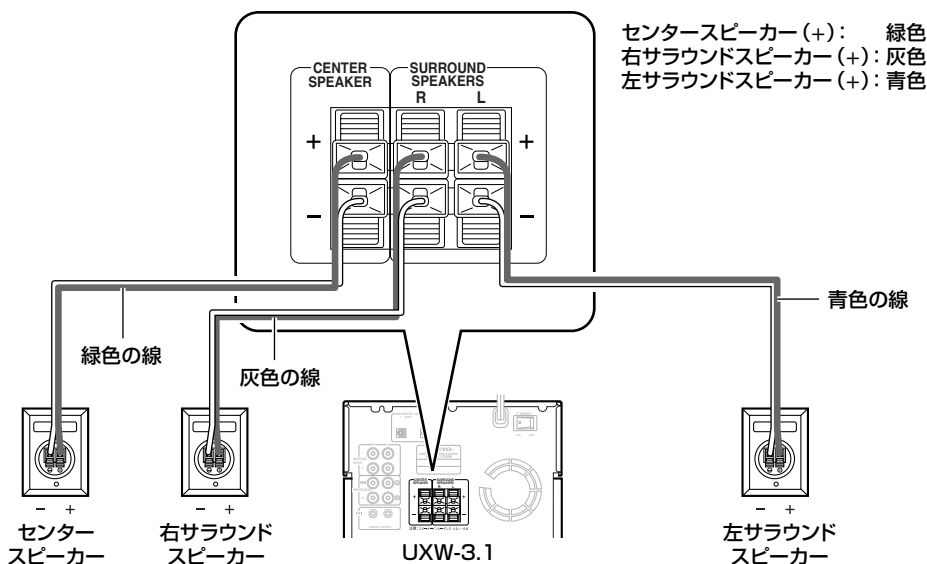
**たて置きの場合**

**横置きの場合**

■ **サテライトスピーカーを固定するには**
サテライトスピーカーには、市販されているスタンドや金具を使用できるネジ穴が設けられています。底面にはピッチ60mmでM5用ネジ穴が2個、背面にはM5用ネジ穴1個が設けてあります。取り付け方法については、ご使用になるスタンドや金具の説明書をご覧ください。

**M5ネジ**

スタンドや金具をご使用になるときは、ネジ長に注意してください。有効ネジ長が7～12mmのものをご使用ください。

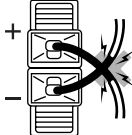
■ **オンキヨーロゴのプレートについて**
サテライトスピーカーを横置きでお使いになるときは、オンキヨーロゴのプレートを回転させて使うことができます。

## センター、サラウンドスピーカーの接続図

本機のスピーカー端子は、識別しやすいように（+）側端子がそれぞれ緑、灰、青の色別となっています。また付属のスピーカーコードにも同じ色の線が入っています。各端子の（+）側には同じ色のスピーカーコードを接続してください。
3つのサテライトスピーカーは同じですので、どれをセンターまたはサラウンドスピーカーとして使用してもかまいません。

ご注意

- プラス（+）とマイナス（−）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声が不自然になります。
- サテライトスピーカーの端子は色区別をしていませんが、（+）側に色のついたコードを接続してください。

**危険**

**回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスあるいはL/Rを絶対にショートさせないでください。**

# 電源を入れる

## 本機の電源を壁のコンセントに接続する

**接続する前に**

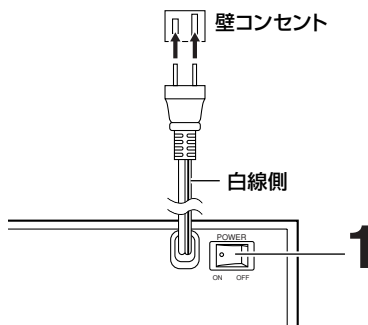
本機の電源コード以外の、すべての接続が完了していることを確認してください。

**電源コードを家庭用電源コンセントに差し込んでください。**

よりよい音で聞いていただくために、本機の電源コードは極性の管理がされています。電源コードの片側に白線の入っている側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

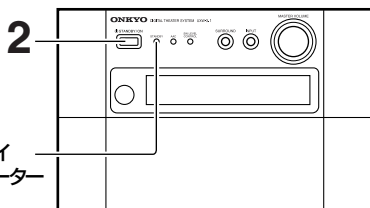
ご注意

本機は主電源スイッチ（POWER）がONの状態で工場出荷されていますので、最初に電源コードのプラグをコンセントに差し込むとスタンバイインジケーターが点灯し、下記の「電源を入れる」の手順1と同じ状態になります。

## 電源を入れる

**1 後面パネルのPOWER（主電源）スイッチをONにする**

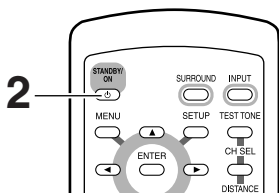
スタンバイインジケーターが点灯し、スタンバイ状態になります。

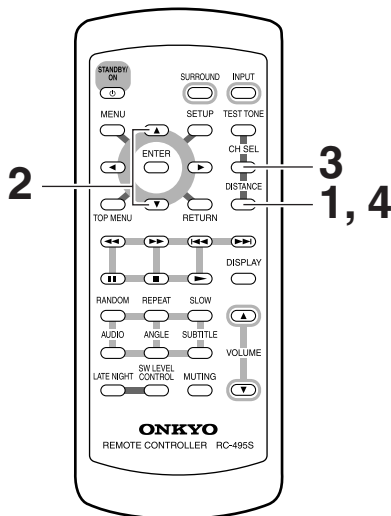
**2 前面パネルまたはリモコンのSTANDBY/ON（スタンバイ/電源オン）ボタンを押す**

スタンバイインジケーターが消え、表示部が点灯します。

### メモリー保持について

本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、登録したレベル設定（☞23ページ）などを停電時などに保護するためのものです。2週間以上本機の主電源を切った状態にしておくと、メモリー内容は消えてしまいます。

### 誤動作するときは

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、静電気などの影響を受けて誤動作するときがあります。このようなときは、電源コードをコンセントから一度抜き、5秒以上たってからつなぎなおしてください。

# スピーカーまでの距離を設定する

操作の前に、設置したスピーカーから聞く位置までの距離を設定します。
スピーカーの設置については、「スピーカーを設置する」（☞15ページ）をご覧ください。

ご注意

- センタースピーカーは、左右のフロントスピーカーより1.5mまで近くに設定できますが、フロントスピーカーより遠くには設定できません。
- 左右のサラウンドスピーカーは、左右のフロントスピーカーより4.5mまで近くに設定できますが、フロントスピーカーより遠くには設定できません。

## 1 リモコンのDISTANCEボタンを押す

表示部にフロントスピーカーまでの距離が表示されます。

Front =3.6m/12ft

## 2 カーソル▲/▼ボタンで、実際の距離に近い数値に設定します

▲ボタンを押すと数値が上がり、▼ボタンを押すと下がります。
0.3m〜9.0mの範囲を0.3m単位で設定できますので、実際の距離に近い値を選んでください。

## 3 CH SELボタンを押してスピーカー表示を切り換え、すべてのスピーカーまでの距離を設定する

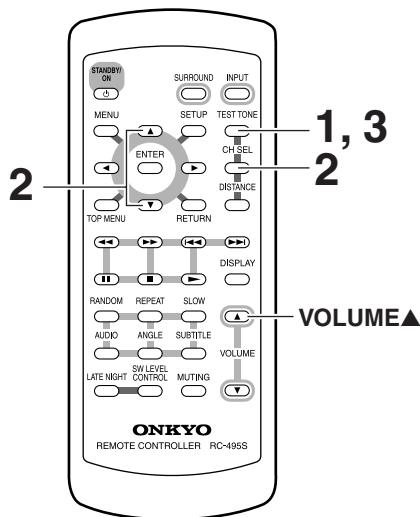
ボタンを押すたびに、スピーカーの表示が次のように切り換わります。設定方法は、手順2と同じです。

Front（左右のフロントスピーカー）
↓
Center（センタースピーカー）
↓
Surr（左右のサラウンドスピーカー）
↓
Front（左右のフロントスピーカー）に戻る

## 4 DISTANCEボタンを押す

通常の表示に戻ります。

# 各スピーカーの音量レベルを設定する

各スピーカーからの音量が同じに聞こえるように、それぞれの音量レベルを設定します。

**ご注意**

**FR-155AX/N3X以外のプロセッサー端子付機器と本機を接続している場合**

フロントスピーカーの音量は、接続している機器の音量を変えると変化します。音量レベルを設定する際には、各スピーカーからの音量が同じ大きさに聞こえるように、接続している機器の音量を調整してください。

## 1 リモコンのTEST TONEボタンを押す

左のフロントスピーカーから「ザー」というテスト音が出ますので、VOLUME▲ボタンでいつも聞く音量にしてください。その後、下記の順で各スピーカーからテスト音がでます。

**Left**（左のフロントスピーカー）
↓
**Center**（センタースピーカー）
↓
**Right**（右のフロントスピーカー）
↓
**Surr Right**（右のサラウンドスピーカー）
↓
**Surr Left**（左のサラウンドスピーカー）
↓
**Subwoofer**（サブウーファー）
↓
**Left**（左のフロントスピーカー）に戻る

テスト音は、TEST TONEボタンを押したあと、何も操作しないでいると、自動的に次のチャンネルに移り、2秒ずつテスト音を出力します。10回繰り返して止まります。

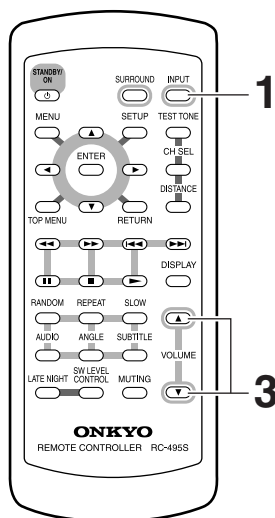
## 2 CH SELボタンを押してスピーカーを切り換え、カーソル▲/▼ボタンで、聞く位置から各スピーカーの音量が同じに聞こえるように調整する

▲ボタンを押すと音量が上がり、▼ボタンを押すと下がります。
－12dB～＋12dBの範囲で設定できます。
（SUBWOOFER（サブウーファー）は、－30dB～＋12dBの範囲で設定できます。）

Center = 0 dB

## 3 TEST TONEボタンを押す

設定したスピーカーの音量レベルが記憶され、通常の表示に戻ります。

# 機器を選んで演奏する

## 1 INPUTボタンを繰り返し押して、入力を選ぶ

**DVD/dig1：**DIGITAL INPUT 1（DVD）端子に接続された機器

**DIGITAL2：**DIGITAL INPUT 2端子に接続された機器

**ANALOG1：**ANALOG INPUT 1端子に接続された機器

**ANALOG2：**ANALOG INPUT 2端子に接続された機器

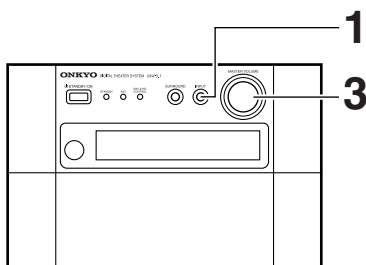
**LINE：**PROCESSOR端子（IN/OUT）に接続された機器

2秒間経つと、選んだ入力とサラウンドモードの表示になります。

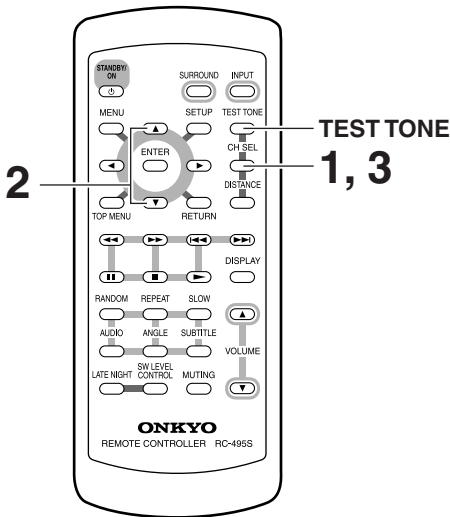
DVD Dolby D

## 2 選んだ機器の演奏を始める

## 3 前面パネルのMASTER VOLUMEつまみまたはリモコンのVOLUME▲/▼ボタンで音量を調整する

MASTER VOLUMEつまみは、右に回すと音量が上がり、左に回すと下がります。
リモコンのVOLUMEボタンは、▲を押すと音量が上がり、▼を押すと下がります。

### アナログとデジタルの切り換えについて

DVD/dig1またはDIGITAL2を選んだとき、本機は常にデジタル信号を選択します。デジタル信号が検出されない場合も、アナログに切り換わることはありません。
アナログ信号を入力するときは、ANALOG INPUT1または2端子に機器を接続し、入力設定をANALOG1または2に切り換えてください。

## 一時的にスピーカーレベルを調整する

再生中、一時的にスピーカーのレベルを調整することができます。

### 1 再生中にリモコンのCH SELボタンを押して、スピーカーを選ぶ

### 2 カーソル▲/▼ボタンで、聞く位置から各スピーカーの音量が同じに聞こえるように調整する

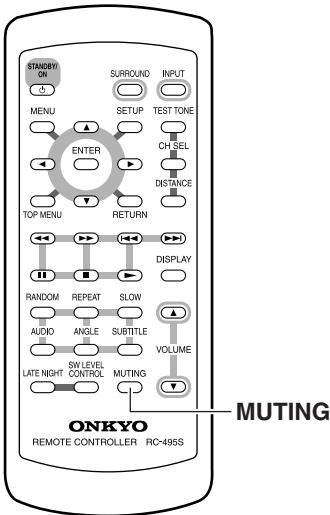
▲ボタンを押すと音量が上がり、▼ボタンを押すと下がります。
－12dB～＋12dBの範囲で設定できます。（サブウーファーは、－30dB～＋12dBの範囲で設定できます。）

### 3 CH SELボタンを押す

サブウーファーを選んでいるときに、CH SELボタンを押すと、通常の表示に戻ります。

お知らせ

- この設定は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。
- CH SELボタンのかわりにTEST TONEボタンを押すと、テストトーンで調整したレベルとして保存されます。

## 音を一時的に小さくする（ミュート機能）

MUTINGボタンを押すと、音量がごく小さくなります。音楽を聞いているときに、電話などですぐに音を小さくしたいときに役立ちます。

### MUTINGボタンを押す

表示部のMUTINGインジケーターが点滅し、一時的に音量を下げます。

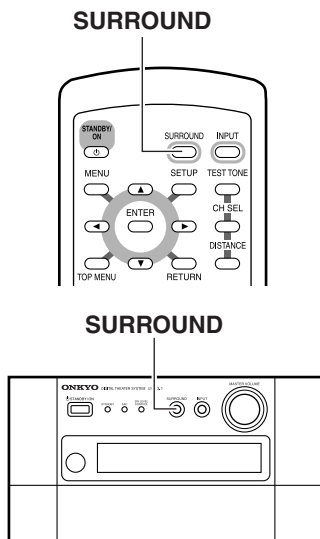
MUTING

もう一度押すと、元の音量に戻ります。

ご注意

以下のときにミュート機能は解除されます。

- 一度スタンバイ状態にしたあとで、次に電源を入れたとき
- リモコンのVOLUMEボタンで音量調整したとき

## ヘッドホンモードを切り換える

本機に接続しているアンプでヘッドホンを使用するときは、本機のヘッドホンモードをオンにしてください。

### 本機のSURROUNDボタンを2秒以上押し続ける

表示部に「Headphone　Mode」と表示されます。ヘッドホンモードがオンになっているときは表示部に入力ソース名と「Headphone」が表示されます。
ヘッドホンモードがオンのときは、サラウンドモードはSTEREOになり、サブウーファーからの音は出ません。
ヘッドホンモードをオフにするには、同様にSURROUNDボタンを2秒以上押し続けてください。

## 入力名を変更する

入力がDVD/dig1のとき、またはDIGITAL2のときは、入力名を変更することができます。接続している機器に合わせて選んでください。（例えば、DVD/dig1にCDプレーヤーを接続しているときは、入力名をCD/dig1に変えます。）

**DVD/dig1の場合：**
INPUTボタンを押して、「DVD/dig1」を選びます。その状態で再度INPUTボタンを押し続けると「CD/dig1」と表示されます。その状態で再度INPUTボタンを押し続けると「DIGITAL1」と表示されます。同様に再度INPUTボタンを押し続けると「DVD/dig1」に戻ります。

**DIGITAL2の場合：**
DIGITAL1の場合と同じ操作になります。「DIGITAL2」、「CD-R/dig2」または「MD/dig2」を選べます。

## サブウーファーの音量レベルを切り換える

現在設定されているサブウーファーの音量レベルを上げることができます。

### SW LEVEL CONTROLボタンを押す

現在の設定が表示されます。

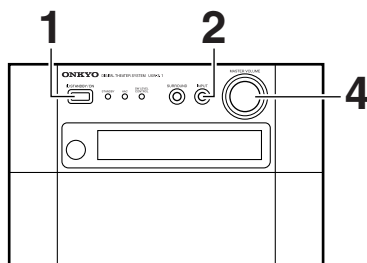
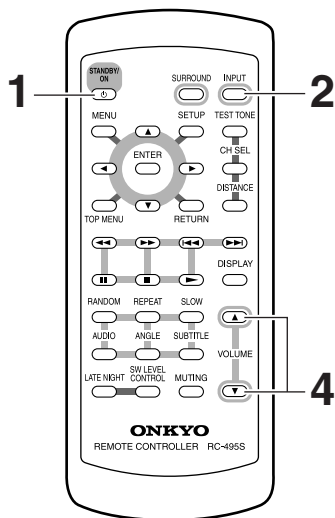
SW LEVEL CONTROLボタンを押すごとに以下のように切り換わります。

**SW Lvl Ctrl　Off：**現在設定されているサブウーファーの音量レベルと同じです。
**SW Lvl Ctrl　1：**現在設定されているサブウーファーの音量レベルよりも3dB上がります。
**SW Lvl Ctrl　2：**現在設定されているサブウーファーの音量レベルよりも6dB上がります。

- テストトーン時は、サブウーファーレベルはオフのレベルになります。
- ここでの設定は、次に設定を変更するまで有効です。

# システム機能を使う

## FR-155AX/N3Xとシステム接続しているとき

操作方法は以下のようになります。

**1** 本機の電源をオンにする

FR-155AX/N3Xの電源もオンになります。

**2** 本機の入力切り換えボタン（またはリモコンのINPUTボタン）で入力を選ぶ

FR-155AX/N3Xに接続している機器を再生する場合は、本機の入力をLINEにしてください。

**3** 選んだ機器の演奏を始める

**4** 本機の音量調整つまみ（またはリモコンのVOLUME▲/▼ボタン）で音量を調整する

以下のシステム機能が使えます。

### ■ 電源連動機能

FR-155AX/N3Xの電源をオンにすると、本機の電源も自動的にオンになります。初期設定ではこの機能はオンになっていますが、この機能を使わない場合、オフにすることができます。

#### リモコンのSETUPボタンを2秒以上押し続ける

表示部に「Power Sync Off」と表示されます。設定をオンに戻すには、同様にSETUPボタンを2秒以上押し続けます。（表示部に「Power Sync On」と表示されます。）

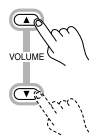
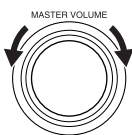
ご注意

電源連動機能の設定にかかわらず、FR-155AX/N3Xの電源をオフにしたときは、本機の電源も自動的にオフになります。また本機の電源をオフにしたときは、本機のみ、電源がオフになります。

## ■ ダイレクトチェンジ

以下の操作をすると、本機の入力は自動的にLINEになります。

- FR-155AX/N3XのCD、MDの▶/❚❚ボタンを押したとき
- FR-155AX/N3XのFM/AM、またはOTHER INPUTボタンを押して入力を切り換えたとき

## ■ 音量調整のしかた

リモコン　UXW-3.1

音量は本機側で調整します。（FR-155AX/N3XのリモコンのVOLUME▲/▼ボタンでも調整できます。）
このとき、FR-155AX/N3X本体の音量調整つまみ、TONEボタンおよび A.PRESボタン（FR-155AX）、S.BASSボタン（FR-N3X）は効かなくなります。

**ご注意**

FR-155AX/N3X本体のTONEボタン、A.PRESボタン（FR-155AX）、S.BASSボタン（FR-N3X）は、本機のサラウンドモードを切り換える働きになります。

## ■ ヘッドホンを使用するときは

リモコン　UXW-3.1

SURROUND　SURROUND

FR-155AX/N3Xでヘッドホンを使用するときは、本機のヘッドホンモードをオンにしてください。（☞26ページ）

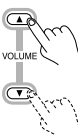
**本機のSURROUNDボタンを2秒以上押し続ける**

ヘッドホンモードがオンになっているときは、表示部に入力ソース名と「Headphone」が表示されます。ヘッドホンモードをオフにするには、再度SURROUNDボタンを2秒以上押し続けます。

# R-805TXまたはA-905TXとシステム接続しているとき

以下のシステム機能が使えます。
電源連動機能は必ずオンにしておいてください。

## ■ 音量調整のしかた

リモコン　UXW-3.1

VOLUME

R-805TX/A-905TXの音量は、以下の手順で設定してください。

① **R-805TX/A-905TXの音量を最小に絞っておく。**

② **本機のリモコンのTEST TONEボタンを押す。**
センター、サラウンドスピーカー、サブウーファーから「ザー」というテスト音が出ますので、VOLUME▲/▼でいつも聞く音量にします。

③ **R-805TX/A-905TXの音量調整つまみで音量を上げていき、フロントスピーカーの音量がセンター、サラウンドスピーカーと同じ音量になるようにしてください。**
この後の音量は本機側で調節しますので、R-805TX/A-905TXの音量は変更しないでください。

## ■ R-805TX/A-905TXの入力で選んでいる機器を再生するときは

リモコン　UXW-3.1

本機の入力をLINEにしてください。

## ■ ヘッドホンを使用するときは

リモコン

UXW-3.1

R-805TX/A-905TXでヘッドホンを使用するときは、本機のヘッドホンモードをオンにしてください。
スピーカーからの音がでなくなります。

**本機のSURROUNDボタンを2秒以上押し続ける**

ヘッドホンモードがオンになっているときは表示部に入力ソース名と「Headphone」が表示されます。ヘッドホンモードをオフにするには、再度SURROUNDボタンを2秒以上押し続けます。

## ■ 音を一時的に小さくするには（ミュート機能）

リモコン

ミュート機能を使うときは、本機のリモコンのMUTINGボタンを押してミュート機能をオンにしてください。
R-805TX/A-905TXのリモコンでミュート機能をオンにしても、本機（センター、サラウンドスピーカー）のミュート機能はオンになりません。

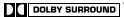
## ■ タイマー録音時のご注意

タイマー録音をセットするときは、電源をスタンバイ状態にする前に、本機のヘッドホンモードをオンにしてください。（「ヘッドホンを使用するときは」の項をご覧ください。）
本機のヘッドホンモードがオフになっていると、録音中に本機にミューティングがかからずに、センターとサラウンドスピーカーから音が出ます。

## ■ タイマー再生時のご注意

ラジオをタイマー再生するときは、電源をスタンバイ状態にする前に、本機の入力をLINEにしておいてください。

# サラウンドモードを使う前に

本機には、以下のサラウンドモードがあります。

### STEREO

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

### DOLBY DIGITAL/ DTS（Digital Theater System）/ MPEG-2 AAC

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。DOLBY DIGITALは、マーク、DTSはマークのついたDVD、LD、CDなどの再生時に楽しむことができます。MPEG-2 AACは、BSデジタル放送で採用されている音声フォーマットです。この方式のソースの再生時に楽しむことができます。MPEG-2 AACの音声多重放送時は、主音声（Main）のみ、副音声（Sub）のみ、主音声と副音声（Main + Sub）を切り換えることができます。

### DOLBY PRO LOGIC Ⅱ

映画に最適なMovieモードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードが選択できます。Movieモードでは、従来モノラルで帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、より移動感のある再生が楽しめます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。DOLBY PRO LOGIC Ⅱは、DOLBY SURROUNDマークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。また、MusicモードはCDなどのステレオ音楽やライブを記録したDVDにも適しています。

### オンキヨー独自のサラウンドモード（DSP）

ドルビーデジタルまたはDTS以外の信号を再生するときは、オンキヨー独自のサラウンドモードを楽しむことができます。

### Orchestra

クラッシックやオペラに適したモード。センターチャンネルをカットするとともに、音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大きなホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

### Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモード。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

### Studio-Mix

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモード。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

### TV Logic

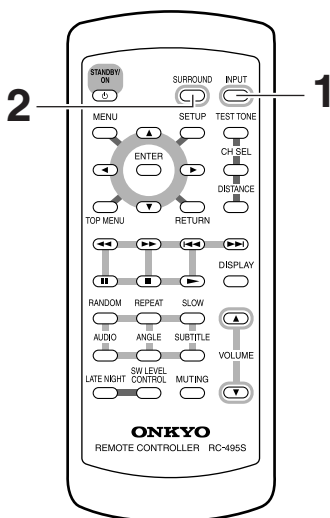
放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモード。局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

### All Ch St

BGMとして音楽をかける時に便利なモード。サラウンドスピーカーもフロントスピーカーと同じ音が出て迫力ある音場をお楽しみいただけます。

### DTS についてのご注意

- DTS対応のCDやLDをANALOG端子のみに接続してアナログ再生すると、DTS信号をそのまま再生するため、ノイズが出力されます。このノイズを再生すると、本機やスピーカーにダメージを与える恐れがありますので、DTS対応のCDやLDを再生するときは再生機器の出力端子を本機のDIGITAL INPUT 端子に接続し、DIGITAL（デジタル）で再生してください。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTSデータに何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTSデータとみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生している時にプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

# サラウンドモードを使う

## 1 リモコンのINPUTボタンを繰り返し押して、演奏したい機器を選ぶ

表示部に選んだ入力とサラウンドモードが表示されます。

DVD/dig1の設定がDOLBY DIGITALの場合

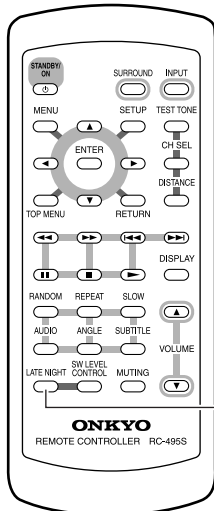
選んだ入力　サラウンドモード

## 2 SURROUNDボタンを押して、サラウンドモードを選ぶ

SURROUNDボタンを押すたびに、モードが切り換わります。選べるモードは入力信号の種類によって異なります。（次ページの表をご覧ください。）ヘッドホンモードがオンになっているときは、サラウンド音声は選べません。

## 3 選んだソースを演奏する

**サラウンドモードを解除するには**
Stereoになるまでサラウンドボタンを押します。通常のステレオ音声に戻ります。AAC（音声多重）のときは、SURROUNDボタンを押すごとに、主音声（Main）、副音声（Sub）、主音声と副音声（Main+Sub）の音声を切り換えます。

## レイトナイト機能（DOLBY DIGITALソフト再生時のみ）

レイトナイト機能をオン（On）にするとドルビーデジタル録音されたソフトを演奏するとき、ダイナミックレンジ（音量の大小幅）を小さくします。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するとき、小さな音も聞こえやすくなります。

### LATE NIGHTボタンを押す

押すたびに、レイトナイトモードのオン（On）とオフ（Off）を切り換えることができます。

**ご注意**

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイトの効果は、ドルビーデジタルソフトによって決まっていますので、ソフトによっては効果が少なかったり、効果がない場合もあります。
- レイトナイト機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

## 入力信号のフォーマットを表示する（デジタル信号入力時のみ）

### リモコンのDISPLAYボタンを2秒以上押し続ける

表示部に次のような表示が3秒間出ます。

**入力ソースの信号**
DOLBY D（ドルビーデジタル）
DTS
PCM

意味は次のようになっています。

a. **フロントチャンネルの数を表します。**
- **3:** フロントの音声が、L（左）、C（センター）、R（右）の3チャンネル
- **2:** L（左）、R（右）の2チャンネル
- **1:** モノラル（1チャンネル）

b. **サラウンドチャンネルの数を表します。**
- **2:** LS（左サラウンド）、RS（右サラウンド）
- **1:** モノラル（1チャンネル）
- **0:** なし

c. **LFE（低域効果音：Low Frequency Effect）のありなしを表します。**
- **.1:** LFE あり
- **空白:** LFEなし

例えば、「3/2.1」と表示された場合は、前方3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立してエンコードされたソースであることを表しています。
PCM信号のときは、サンプリング周波数を表示します。たとえば「PCM fs: 44.1kHz」と表示されたら、PCM信号でサンプリング周波数が44.1kHzであることを表します。

| 入力ソースの信号 | Analog/PCM*[1] | Dolby Digital | | DTS | MPEG-2 AAC | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ソースとなるソフト | カセット、CD、ビデオ、FM/AM | DVDビデオ、LD | | CD、DVDビデオ、LD | デジタル衛星放送 | | |
| リスニングモード | | マルチチャンネル | ステレオ | | マルチチャンネル | ステレオ | 音声多重放送 |
| Stereo | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| PL II Movie | ● | | ● | | | ● | |
| PL II Music | ● | | ● | | | ● | |
| Dolby D | | ● | | | | | |
| DTS | | | | ● | | | |
| AAC | | | | | ● | | |
| AAC Main + Sub | | | | | | | ● |
| AAC Main | | | | | | | ● |
| AAC Sub | | | | | | | ● |
| Orchestra | ● | | | | | | |
| Unplugged | ● | | | | | | |
| Studio-Mix | ● | | | | | | |
| TV Logic | ● | | | | | | |
| All Ch St | ● | | | | | | |

*[1] 96kHzのサンプリングレートで記録されたPCMソースはStereo（ステレオ）のみの再生となります。

# 主な仕様

## ■ 本体（本体は、デコーダー、アンプ、サブウーファーが一体になっています）

| | |
|---|---|
| **アンプ部** | |
| 定格出力（各チャンネル駆動時） | |
| サラウンド部： | 15W × 3（1kHz、6 Ω /EIAJ） |
| サブウーファー部： | 25W（100Hz、3 Ω /EIAJ） |
| 周波数特性 | |
| サラウンド部： | 120Hz ～ 20kHz、＋ 1/ － 3dB |
| サブウーファー部： | 20Hz ～ 120Hz、＋ 1/ － 3dB |
| 全高調波歪み率： | 0.1%（出力 5W） |
| SN 比： | 100dB（IHF A 0.5V 入力） |
| ミュート： | － 50dB |
| 入力感度 / インピーダンス | |
| アナログ 1： | RCA L/R（200mV/50k Ω） |
| アナログ 2： | RCA L/R（200mV/50k Ω） |
| プロセッサー： | RCA L/R（200mV/50k Ω） |
| **スピーカー部** | |
| 形式： | J ドライブ方式　16cm OMF コーン |
| **一般** | |
| 電源： | AC100V、50/60Hz |
| 消費電力： | 46W（電気用品安全法技術基準） |
| 待機電力： | 9.5W |
| 外形寸法(幅×高さ×奥行き)： | 205mm × 300mm × 289mm |
| 質量： | 8.3kg |
| その他： | 防磁設計（EIAJ） |

## ■ サテライトスピーカー

| | |
|---|---|
| 形式： | 密閉型　8cm OMF コーン（1 個につき 1 本使用） |
| 外形寸法(幅×高さ×奥行き)： | 85mm × 120mm × 112mm |
| 質量： | 各 0.7kg |
| その他： | 防磁設計（EIAJ） |

性能および外観は、性能向上のため予告なしに変更することがります。

# 故障かな？と思ったら

本機が正常に動作しないときは、この表を参考にしてお調べください。これらの処理をしても直らないとき、これ以外の症状のときは、電源コードをコンセントから抜いて「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（UXW-3.1）」「故障状況」をできるだけ詳しくお買い上げいただいたお店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

| 症状 | 原因 | 対応の仕方 |
|---|---|---|
| 電源を入れた途端に電源が切れた。 | アンプ保護回路が動作した。 | ただちに電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店もしくは当社サービスステーションにご連絡ください。 |
| 電源が入らない | 電源コードがコンセントから抜けている。 | 電源コードをコンセントに差し込んでください。（☞21ページ） |
| | 背面のPOWER（主電源）スイッチがOFF（オフ）になっている。 | ON（オン）にしてください。（☞21ページ） |
| | 外部ノイズが本機内部のマイコンに影響した。 | 電源プラグを一度コンセントから抜き、5秒以上たってから再度つなぎなおしてください。（☞21ページ） |
| 電源は入るが、音が出ない。 | MUTINGインジケーターが点滅している。 | リモコンのMUTINGボタンを押してMUTINGインジケーターを消してください。（☞25ページ） |
| | ピンコードやスピーカーコードの接続が正しくない。 | もう一度接続を確認してください。プラグやコード類はしっかりと接続してください。（☞16〜20ページ） |
| | マイコンが誤作動している。 | 電源プラグを一度コンセントから抜き、5秒以上たってから再度つなぎなおしてください。（☞21ページ） |
| | INPUT（入力）の設定が正しくない。 | INPUTボタンで再生したいソースを選んでください。（☞24ページ） |
| フロントスピーカーの音が出ない（FR-155AX/N3X以外のアンプと接続している場合） | アンプ側の音量が最小になっている。 | アンプ側の音量を適切な音量にしてください。 |
| | アンプ側のミューティング機能が働いている。 | アンプ側のミューティング機能を解除してください。 |
| | 正しく接続されていない。 | もう一度接続を確認してください。（☞18ページ） |
| フロントスピーカーの音が出ない（FR-155AX/N3Xと接続している場合） | 正しく接続されていない。 | もう一度接続を確認してください。（☞17ページ） |
| リモコン操作ができない。 | リモコンに電池が入っていない。 | 乾電池を正しく入れてください。 |
| | 電池の寿命がなくなっている。 | 新しい乾電池と交換してください。（☞12ページ） |
| | リモコン受光部が障害物でふさがれている。 | 障害物を取り除いてください。 |

※ 操作中に表示部に表示されるメッセージは以下の内容を意味します。
Not available:　ドルビーデジタル以外の入力のため、Late Nightは設定できません。
fs 96kHz In:　96kHzのPCMが入力されているため、サラウンドモードは選べません。
Phone Mode On:　ヘッドホンモードがオンになっているため設定できません。
Muting On:　ミュート機能がオンになっているため設定できません。
DOLBY DIGITAL, DTS, AAC, PCMのインジケーターが点滅している：
デジタル信号が入力されていません。（本機とデジタル機器を接続しているケーブルが外れている、デジタル機器が再生されていないなど）

**製品の故障により、正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDのレンタル料等）については保証対象になりませんので、大事な録音をされるときには、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。**

# オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

| お 客 様<br>ご相談窓口 | **カスタマーセンター** 受付 9:30～17:30 （土日祝、弊社休日除く）<br>■カタログのご請求、製品についてのご相談<br>＊e-mail： ホームシアター/オーディオ製品→customer@onkyo.co.jp<br>マルチメディア製品 →mmcadmin@onkyo.co.jp<br>＊TEL：ナビダイヤル 0570-01-8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます）<br>または072-831-8111（携帯電話、PHSから）へどうぞ。<br>＊FAX：072-831-8124 〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町2-1 |
|---|---|

**オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ→http://www.onkyo.co.jp**

**快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ→http://www.e-onkyo.com**

**修 理 窓 口** 修理のご依頼は取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

**北海道地区**
札幌サービスステーション
TEL 011-747-6612 FAX 011-747-6619
〒001-0028 札幌市北区北28条西5-1-28
トーシン北28条ビル

**青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島地区**
仙台サービスステーション
TEL 022-297-0571 FAX 022-257-7330
〒984-0051 仙台市若林区新寺4-9-5
第二丸昌ビル 1F

**茨城・栃木地区**
宇都宮サービスステーション
TEL 028-634-4307 FAX 028-634-4308
〒320-0831 栃木県宇都宮市新町2-7-7

**群馬・埼玉・新潟地区**
大宮サービスステーション
TEL 048-651-8612 FAX 048-651-9137
〒330-0034 埼玉県さいたま市土呂町2-29-2
高安ビル 1F

**千葉・東京（23区）地区**
東京サービスセンター
TEL 03-3861-8121 FAX 03-3861-8124
〒111-0054 東京都台東区鳥越1-2-3
ハマスエビル

**東京（23区を除く）・山梨・長野地区**
八王子サービスステーション
TEL 0426-32-8030 FAX 0426-36-9312
〒192-0914 東京都八王子市片倉町358番地

**神奈川地区**
横浜サービスステーション
TEL 045-322-9342 FAX 045-312-6603
〒220-0072 横浜市西区浅間町1-13
共益ビル5F

**岐阜・静岡・愛知・三重地区**
名古屋サービスステーション
TEL 052-772-1229 FAX 052-772-1331
〒465-0013 名古屋市名東区社口1丁目1001番

**富山・石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山地区**
大阪サービスセンター
TEL 06-6576-7620 FAX 06-6576-7604
〒552-0013 大阪市港区福崎3丁目1番148号

**鳥取・島根・岡山・広島・山口（下関を除く）地区**
広島サービスステーション
TEL 082-262-3315 FAX 082-262-6571
〒732-0057 広島市東区二葉の里2-8-28

**徳島・香川・愛媛・高知地区**
高松サービスステーション
TEL 087-868-5662 FAX 087-868-5672
〒760-0079 高松市松縄町44-8 西原ビル1F

**山口（下関）・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄地区**
福岡サービスステーション
TEL 092-418-1357 FAX 092-418-1358
〒812-0006 福岡市博多区上牟田3-8-19
みなみビル202

## オンキヨーサービス認定店

**静岡サービス認定店**
TEL 0543-46-6502 FAX 0543-46-6502
〒424-0063 静岡県清水市能島171-15

**北陸サービス認定店**
TEL 0776-27-1868 FAX 0776-27-1768
〒910-0001 福井県福井市大願寺3-5-9

**岡山サービス認定店**
TEL 086-274-5840 FAX 086-274-5840
〒703-8271 岡山県岡山市円山13

**熊本サービス認定店**
TEL 096-364-1475 FAX 096-364-1475
〒862-0970 熊本県熊本市渡鹿7-15-18

**沖縄サービス認定店**
TEL 098-876-9195 FAX 098-876-9195
〒901-2104 沖縄県浦添市当山558番地の8
キャッスルサイド浦添102号

2001年12月現在 お客様相談窓口、修理窓口、オンキヨーサービス認定店の名称、住所、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

G -1

# 修理について

## ■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間はお買い上げ日より1年間です。

## ■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、ただちに電源プラグを抜いてから、修理を依頼してください。

## ■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。
詳細は保証書をご覧ください。

## ■ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(UXW-3.1)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しく、お買い上げ店または当社サービスステーションまでご連絡ください。

## ■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

## ■ 補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入された時にご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日　：　　　　年　　　月　　　日
ご購入店名　　：
Tel.　　　（　　　）
メモ:

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

http://www.onkyo.co.jp/

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先:
お買い上げの販売店もしくは「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」に記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。

● 東京サービスセンター ☎03（3861）8121　● 大阪サービスセンター ☎06（6576）7620

SN 29343309　D0204-1